

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団
平成 26 年度 事業報告
(平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで)

I 事業概要

平成 26 年度事業計画に基づき、地域連携をより強く意識しながら、「事故、災害の防止やご被害者、ご被災者支援に直結する事業」を多面的に推進してきた。

1. 心身のケアに関わる事業

(1) グリーフケアに関わる人材養成講座への助成（上智大学グリーフケア研究所の寄付講座）

誰もが安心して悲嘆等に伴うこころのケアを受けられる社会を目指し、グリーフケアに関する専門知識・技能を持って実践に携わる人材や地域社会においてグリーフケアを提供する市民ボランティアを養成している上智大学グリーフケア研究所の人材養成講座に対し、寄付助成を行っている。

平成 26 年度から 2 年制の新課程「グリーフケア認定課程・基礎コース」、「同・臨床コース」が開講し、それぞれ 16 名、17 名が受講した。また、平成 25 年度までの入学生を対象とした旧課程「グリーフケアボランティア養成コース」では 27 名、「グリーフケア専門コース」では 8 名が修了した。

(2) 心身のケアに関する啓発活動

①連続講座『「いのち」を考える』の開催

平成 24 年度から 1 期 10 回の連続講座を年 2 回開催してきたが、テーマは引き続き、死や悲嘆、グリーフケア等の多様な観点から「いのち」に焦点を当て、ともに考える場として、その機会拡大を図る目的で年 3 回（1 期 6 回）として開講した。

・第 5 回連続講座 開催概要（会場：毎日新聞オーバルホール、開催時間：18:30～20:00）

参加者数：のべ約 2,400 名

日付	講師	
5/16（金）	山田 邦男	大阪府立大学名誉教授
5/23（金）	小達 一雄	（財）夏目雅子ひまわり基金理事長
5/30（金）	柏木 哲夫	金城学院学院長、淀川キリスト教病院理事長
6/ 6（金）	玉木 幸則	西宮市社会福祉協議会 障害者相談支援センターにしのみやセンター長
6/13（金）	清水 康之	特定非営利活動法人 自殺対策支援センターライフリンク代表
6/20（金）	小山 明子	女優、エッセイスト

・第 6 回連続講座 開催概要（会場：毎日新聞オーバルホール、開催時間：18:30～20:00）

参加者数：のべ約 2,500 名

日付	講師	
10/ 3（金）	飯田 史彦	飯田史彦メンタルヘルス・マネジメント研究所所長
10/10（金）	池永 昌之	淀川キリスト教病院 ホスピス・こどもホスピス病院副院長
10/17（金）	菅野 典雄	福島県飯舘村村長
10/24（金）	木村 利人	早稲田大学名誉教授
10/31（金）	鎌田 東二	京都大学こころの未来研究センター教授
11/ 7（金）	高木 慶子	上智大学特任教授 上智大学グリーフケア研究所特任所長

・第7回連続講座 開催概要（会場：関西国際大学尼崎キャンパス、開催時間：18:30～20:00）

参加者数：のべ約2,200名

日付	講師	
1/30(金)	藤本統紀子	エッセイスト
2/6(金)	戸松 義晴	浄土宗総合研究所主任研究員
2/13(金)	楠木 重範	チャイルド・ケモ・クリニック院長
2/20(金)	齋藤 富雄	元兵庫県副知事・兵庫県初代防災監
2/27(金)	鍋島 直樹	龍谷大学文学部教授、人間・科学・宗教・プロサチセンター長
3/6(金)	大野 裕	(独)国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター長

②「いのちのセミナー」の開催

「いのち」をテーマとした講演を通して、私たち一人ひとりが「いのち」と向き合い、「生きる力」を得ることができるような場として開催した。

<実施概要>

日時：平成26年12月21日（日） 13時30分～15時10分

場所：グランフロント大阪 ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター

内容：「最先端の科学から考えるいのち」京都大学 iPS 細胞研究所 所長/教授 山中 伸弥

参加者：1,530名（応募者：9,550名）

2. 地域社会の安全構築に関わる事業

(1)「安全セミナー」の開催

地域社会における安全構築の重要性を踏まえ、企業や行政活動、市民生活における安全確保や事故防止に資するテーマを取り上げ、「安全セミナー」を開催している。平成26年度は2回実施することとし、上期には東日本大震災を契機として災害に対する安全の重要性への意識が高まる防災をキーワードとする「災害と危機管理」をテーマに実施し、下期は前年度から引き続き参加者の関心・ニーズが高い「ヒューマンファクター」をテーマに取り上げ開催した。

<実施概要>

【上期】テーマ：「災害と危機管理」

日時：平成26年9月4日（木） 13時30分～16時30分

場所：あましんアルカイックホール・オクト

内容：○「災害リスク・コミュニケーションの新しいかたち」

京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 教授 矢守 克也

○「災害多発時代の安全・安心を実現する」

関西大学社会安全研究センター長 教授 河田 恵昭

参加者：660名（応募者：900名）

【下期】テーマ：『『ヒューマンファクター』から考える安全』

日 時：平成 27 年 3 月 19 日（木） 13 時 30 分～16 時 30 分

場 所：神戸新聞松方ホール

内 容：○「鉄道のヒューマンエラー事故防止に向けて」

公益財団法人鉄道総合技術研究所研究開発推進室 主管研究員 鈴木 浩明

○「『3つの心理』を基礎に築く安全・安心体制」

株式会社安全マネジメント研究所 代表取締役所長 工学博士 石橋 明

参加者：670 名（応募者：900 名）

(2) 初期救護の重要性に関する普及啓発活動の実施

駅ご利用者をはじめ地域住民の方々々に手軽に AED の使用や心肺蘇生法、駅ホームや踏切の非常ボタンなどを実体験していただくことで、広く市民による初期対応や初期救護（ファーストエイド）の重要性を啓発し、市民の自助、共助意識を涵養するため、JR 西日本や消防、NPO、地元自治会等と連携・協力し「救急フェア」等を開催している。また、毎月 9 日に AED の取り扱い方法の体験に特化した「救 9 の日 エキデモ AED」も実施した。

	開催回数	参加者数	うち AED 等体験者数
救急フェア	16 回	3,300 名	850 名
エキデモ AED	12 回	900 名	600 名
合 計	28 回	4,200 名	1,450 名

(3) AED 訓練器等の提供による初期救護の普及啓発

今年度より、応急手当てなど常日頃の防災・減災に向けた対策の支援活動として、公募により AED 訓練器等の資機材を提供することで、救命処置の普及啓発の深度化を図る取り組みを行った。

団体種別	企業	学校	NPO	その他	合計
応募件数(セット)	1 (5)	4 (15)	5 (19)	19 (35)	29 (74)
提供件数(セット)	—	3 (12)	1 (4)	7 (14)	11 (30)

3. 「安全で安心できる社会」の実現に関わる事業

(1) あしなが育英会への助成

事故や災害、病気等様々な理由で親をなくした子どもたちへの心のケア活動の一環として取り組んでいるあしなが育英会が主催する「高校奨学生のつどい」及び小・中学生を対象とした「キャンプのつどい」に対し、寄付助成を行っている。平成 26 年度は、「高校奨学生のつどい」では先輩奨学生から高校奨学生全員へのアドバイスが行われ、また、小・中学生を対象とした「キャンプのつどい」では「心のケアプログラム」が行われ、多くの気づきが得られる場となった。

(2) 関西いのちの電話及び神戸いのちの電話への助成

心のケアのより一層の充実・増進を図るため、福知山線の沿線地域で市民からの電話相談事業に取り組んでいる関西いのちの電話及び神戸いのちの電話における電話相談員のスキルアップやメンタルケアに関する活動に対し、寄付助成を行っている。平成 26 年度は、各団体において専門家による実践的な知識、スキルの向上に向けた教育、研修やメンタルケアが行われた。

(3) 地域における各種活動等に対する支援協力

当財団では上記のほか、財団の設立趣旨に合致し公益性や社会的必要性が高いと認められる活動に対し協賛を行っている。平成 26 年度は、京阪神に拠点のある遺族会が個々の遺族会のレベルアップを目指して実施する勉強会を盛り込んだ交流会の開催等に対して協賛を行った。

4. 公募助成事業

(1) 「平成 27 年度公募助成（活動及び研究）」の実施（募集、審査、決定）

当財団では、設立初年度より、事故・災害に対する備えやその後のケアに関連する活動・研究を対象とした公募助成を実施している。

平成 26 年度は、平成 27 年度に行われる活動や研究を対象とした助成事業の公募を実施した。応募件数 136 件について審査した結果、58 件、5,068 万円の助成を行った。一昨年度以前 25%程度であった採択率は今回 43%と昨年度に引き続き多くの活動及び研究に支援することができた。

平成 27 年 3 月には、助成対象団体や研究者の方を対象に公募助成贈呈式を開催するとともに、助成先相互のネットワークづくりを目的に交流会を実施した。

〔実績〕

	応募件数	助成件数	金額
活動助成	65 件	32 件	1,879 万円
活動助成（特別枠）	25 件	12 件	755 万円
研究助成	46 件	14 件	2,434 万円
計	136 件	58 件	5,068 万円

(2) 第 4 回公募助成活動発表会

助成活動の成果の社会的還元や助成先同士の交流などを目的に、平成 25 年度に実施された助成活動の成果発表を行う「活動発表会」を開催した。

＜実施概要＞

日 時：平成 26 年 8 月 31 日（日）

〔発表会〕 13 時 30 分～16 時 05 分（ステージ発表）

〔交流会〕 16 時 25 分～18 時 00 分（ポスター発表含む）

場 所：ホテルグランヴィア大阪

発表者：35 団体（ステージ発表 9 団体、ポスター発表 26 団体）

参加者：108 名（発表団体、聴講者、役員、スタッフ）

II 財団運営に関わる事項

1. 機関運営（評議員会、理事会、事業審査評価委員会の開催）

(1) 評議員会

開催回数：1回

決議事項等：平成25年度計算書類等の承認、評議員の選任 等

(2) 理事会

開催回数：4回

決議事項等：業務執行状況報告等のほか、以下の事項について決議を行った。

平成25年度事業報告及び計算書類等の承認、評議員会の招集、平成27年度連続講座の基本方針の承認、「平成27年度公募助成（活動及び研究）」の採択決定の承認、「平成27年度AED訓練器等の提供」の採択決定の承認、平成27年度基本財産の運用基本方針の承認、平成27年度事業計画及び収支予算の承認、平成28年度公募助成（活動及び研究）の基本方針の承認 等

(3) 事業審査評価委員会

開催回数：4回

審議事項等：理事長からの諮問に基づき、以下の事項について審議を行い、理事長へ答申を行った。

平成25年度助成事業の実績・成果等の確認評価、平成27年度公募助成（活動及び研究）の内容及び方法に関する指導・助言、平成27年度公募助成（活動及び研究）の選考、平成27年度助成先の審査 等

2. その他

(1) 基本財産の運用

基本財産20億円は、西日本旅客鉄道株式会社の無担保社債（20年物）により10億円、国債（20年物）により10億円を継続して運用した。

(2) 立入検査の受検

公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の規定に基づく内閣府による立入検査を受検、改善を要する指摘事項はなかった。（12/4）

(3) 広報活動及び情報公開

当財団のホームページにおいて、財務資料等の基本情報の開示や財団事業の実施概要、実施結果等の公表を行った。また、事業実施時におけるプレス発表のほか、JR主要駅へのポスター・パンフレットの掲出、財団紹介用パンフレットの製作・配布、広報誌「R e l i e f」の発行（平成26年4月、7月、10月、平成27年1月）に加え、平成27年度公募助成の募集にあわせた広報（行政窓口及び中間支援団体等訪問）など、財団事業及び財団そのものの認知度向上のための広報活動に努めた。